

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健福祉共通科目	対人援助特論	<p>（概要）本科目では、対人援助に関する哲学的視座、および臨床心理学的視座による対人援助スキルの理論と実践、対人システムをマクロに見立てる視座を学ぶとともに、職種間の連携・協働を推進するスキルを学ぶ。はじめに、哲学的視座から対人援助の本質と特性を総合的に考察し、対人援助専門職の持つ「知識・技術・価値」三位一体の理論的根拠を学び、専門職としての倫理についても学ぶ。また、臨床心理学的視座から対人援助の理論、方法論とその実際について、対個人の援助の方法論を学ぶ。さらに、家族や職場など個人を内包するシステムの諸問題についてどう見立てて介入するかについてシステム論的家族療法/ブリーフセラピーの理論から学び具体的な援助実践の基礎を学び、事例解説等を学ぶ。さらに対人システムをマクロに見立てる視点から、組織コンサルテーションの基礎を学ぶ。さらに、具体のIPW（Interprofessional Work、専門職連携実践）へ適用する方法論を学ぶ。（科目責任者：⑨ 生田倫子）</p> <p>[オムニバス方式 全15回]            ① 金龍哲/5回            哲学的な視座により、ケア、人生、発達、自己実現、幸福の追求等の視点、対人援助の本質と特性を総合的に考察する、②対人援助専門職の持つ知識・技術・価値の三位一体の働きかけの理論的根拠を学ぶ、③対人援助を方向付ける援助職共通の価値基盤と専門職としての倫理について考える。</p> <p>⑨ 生田倫子/7回            臨床心理学的視座から対人援助の理論、方法論とその実際を学ぶ。①対個人の援助についての基礎、②対個人を援助する実践理論としてブリーフセラピーに基づく援助技法の初歩を学ぶ。③家族や職場など、問題を持つ個人を内包するシステムを含めた視座について、どう見立てて介入するかについて、システム論的家族療法/ブリーフセラピーの基礎を学ぶ。④組織を見立てるコンサルテーション、実際の面接のデモンストレーションを学ぶ。⑤システム論に基づく組織コンサルテーションの基礎を概説する。</p> <p>⑩ 大塚真理子/3回            上記の対人援助の哲学的基盤、具体的方法論を、IPWに適用することについて学ぶ。IPWにおける専門職のコンピテンシーとIPWの方法論を学ぶ。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健福祉 共通科目	保健福祉国際政策特論	<p>（概要）保健・医療・福祉政策の史的展開、現状、課題解決について、海外比較研究の視点から講述する。福祉国家といわれる諸外国における医療保健福祉政策を考察する。そこから、少子高齢化・貧困格差社会に直面する日本の国家的課題へ考察を進め、ローカルには神奈川県下市町村の保健・医療・福祉政策のあり方を論じ、政策提言できる能力の獲得を目指す。（科目責任者：8 山本恵子）</p> <p>[オムニバス方式 全15回] (8 山本恵子/2回)</p> <p>1. 英国における福祉国家の変容について、福祉多元主義の視点から考察し、国家福祉とサードセクター、社会的企業との関係について講述する。</p> <p>(39 太田貞司/2回)</p> <p>2. フィンランドにおける地域ケア政策の展開と独自のケアワーカー制度・ラヒホイタヤの創設を講述し、日本の地域包括ケアシステムの構築の今後のあり方を検討する。</p> <p>(⑤ 西村淳/2回)</p> <p>3. オーストラリアの社会保障・社会福祉について、選別的な社会保障政策と充実した労働者保護政策という福祉国家の原型とその変化を講述する。</p> <p>(38 河幹夫/3回)</p> <p>4. 日本の保健・医療・福祉政策の歴史的展開について講述する。特に介護保険の成立過程について、その歴史的必然性を解説し、今後のあり方を検討する。</p> <p>(40 数間恵子/2回)</p> <p>5. 日本の疾病構造及び人口構造の変化に対応した保健・医療・福祉に関して、特に医療機関を中心とした多職種協働の仕組みと政策提案について検討する。</p> <p>(37 大崎逸朗/3回)</p> <p>6. 神奈川県の保健・医療・福祉政策の課題を講義する。特に在宅医療の推進および医療介護連携強化を中心とした総合政策を検討し、政策提言へと議論を展開する。</p> <p>(8 山本恵子/1回)</p> <p>7. まとめ これまでの保健・医療・福祉の統合化に関する学びを踏まえて、今後の方向性を展望する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健 福祉 共通 科目	保健福祉人材育成論	<p>（概要）保健・医療・福祉領域における専門職者育成の歴史の変遷および現状と課題を理解する。また、ヒューマンサービスを実践できる次世代の専門職者育成に向けて、教授－学習過程に関する主要な理論や方法論を理解し、教育実践に活用する能力を培う。（科目責任者：⑧ 宮芝智子）</p> <p>[オムニバス方式 全15回]            ① 金龍哲/1回            教育・学習に関する基礎理論および現代社会の抱える教育に関する諸問題を学習する。</p> <p>⑧ 宮芝智子/2回            成人学習理論の成り立ちと特徴を学習し、成人学習理論を活用した保健福祉に関わる人材の育成方法を学習する。</p> <p>⑧ 宮芝智子/1回            専門職育成に関する歴史の変遷を理解し、看護領域の専門職者育成に関する課題を明確にする。</p> <p>② 杉山みち子/1回            専門職育成に関する歴史の変遷を理解し、栄養領域の専門職者育成に関する課題を明確にする。</p> <p>⑦ 菅原憲一/1回            専門職育成に関する歴史の変遷を理解し、リハビリテーション領域の専門職者育成に関する課題を明確にする。</p> <p>⑤ 西村淳/1回            専門職育成に関する歴史の変遷を理解し、社会福祉領域の専門職者育成に関する課題を明確にする。</p> <p>(41 酒井郁子/2回)            専門職連携教育を支える学習理論を学習する。また、保健、医療、福祉の現場で各専門職が協働し問題を解決する能力を育成するための教育方法およびその実際を学習する。</p> <p>⑧ 宮芝智子/4回            多様な教授－学習過程の特徴の理解に向けて、受講生が興味のある授業を参観し、文献講読と併用して、学習者のレディネスや授業の目的に応じた教材作成、教授－学習過程、評価に関して学習する。また、受講生が実践を希望する授業を選択し、授業担当教員と相談しながら教育実践に携わる。</p> <p>⑧ 宮芝智子、① 金龍哲、③ 白水真理子/2回（共同）            教授－学習過程の特徴の理解に基づき、専門職教育への効果的な活用について考察する。また、学習を促進する教授方略について経験に基づく実践知を活用しながら考察する。</p>	オムニバス方式・ 共同（一部）  講義18時間 演習12時間

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健福祉共通科目	多職種連携システム開発演習	<p>（概要）保健・医療・福祉の地域マネジメントに関わる解決困難且つ複雑・高度な演習課題に対して複数の異なる系の学生がともに研究・教育・実践の観点から多職種連携システム・政策・制度開発や再生のための活動計画作成・発表を行う。演習は、講義とオリエンテーション、学生による演習課題の選択、系統的論文検索に基づくレビューの作成・発表、訪問やヒアリングによる可視化と討議、中間発表、最終発表から構成される。（科目責任者：② 杉山みち子）</p> <p>[オムニバス方式 全15回]          ① 小山秀夫/6回          導入のためのレクチャー：          地域マネジメントの観点から地域包括ケアシステムをめざす医療・介護・福祉における多職種連携の背景、現状、今後の課題についてレクチャーし、その後の課題別多職種連携システム開発に対する共通理解を深める。</p> <p>（共同/9回）          ① 小山秀夫/9回          演習討議          次の演習課題の討議に参加する。</p> <p>演習課題（学生による選択）          ③ 白水真理子/9回          慢性病患者への多職種連携ケア：          慢性病をもつ患者と家族への多職種連携のケアを課題とし、疾患、対象の特徴、予防の観点を含む健康問題等を特定し、少子高齢社会における課題と今後の多職種連携システムのあり方を、施設内、施設間や地域との連携を視野に入れ、実践的に検討する。</p> <p>④ 村上明美/9回          性暴力被害者支援：          性暴力被害者支援における医療者をはじめ、警察、行政、臨床心理士、相談員、弁護士、支援民間団体等の専門家による有機的な連携支援体制を課題とし、国内外の先行研究及び性暴力被害者支援に精力的に取り組んでいる活動に着目し、性暴力被害者支援の多職種連携システムの在り方を検討する。</p> <p>② 杉山みち子、⑩ 五味郁子/9回          地域高齢者の食生活支援：          地域包括ケアシステムにおける後期高齢者の「食べる楽しみの支援の充実」を課題とし、栄養・食生活支援の観点から多職種及び生活支援連携システムが機能していない現状を打開するため、課題解決のための再生戦略を検討する。</p> <p>⑤ 西村淳/9回          地域包括ケアシステムづくり：          地域包括ケアシステムを、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが求められている。特定の地域をフィールドにし、各専門職・行政の連携と地域住民の支え合いのもとでネットワークを形成し、地域の包括的な支援・サービス提供体制を構築するための課題と方法に関して政策立案と戦略開発を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健 福祉 共通 科目	疫学研究法	<p>（概要）保健・医療・福祉に関わる研究を進めるためには、集団を対象とした疫学研究、すなわち科学的な根拠に基づく検討が必要となる。そこで本科目においては疫学研究のデザインと高度な生物統計学的手法について解説する。（科目責任者：28 大庭志野）</p> <p>[オムニバス方式 全8回]            (28 大庭志野/4回)            生態学的研究及び大規模な観察研究における統計手法とその解釈について教授する。科学的合理性に基づいた研究論文の読み方と批判的吟味を指導する。</p> <p>(36 竹内正弘/4回)            臨床試験及びメタアナリシスの解釈と統計手法の詳細を解説する。米国フラミンガム研究やわが国の新薬開発の現状と課題について紹介する。</p>	オムニバス方式  講義12時間 演習 3時間

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健 福祉 共通 科目	アカデミックライティング	<p>〔概要〕 学術誌（主に自然科学系の英文学術誌）に論文を投稿する際に記載すべき項目・内容について学習する。投稿論文作成技術を身に付けることが、本科目の目的である。（科目責任者：14 山西倫太郎）</p> <p>[オムニバス方式 全8回]            (14 山西倫太郎/4回)            論文の構造（タイトル・抄録・緒言・方法・結果・考察・結論等）ならびに、各々の学術誌がどのような分野&amp;内容の論文の掲載を目的として出版されているかについて学ぶ。</p> <p>(33 向井友花/4回)            仮想論文を作成・相互査読等の経験を通して、抄録のまとめ方、緒言・考察に記述すべき内容の理解と、首尾一貫した論理を保つための基本的方法を習得する。</p>	オムニバス方式 隔年 講義 8時間 演習 7時間

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健 福祉 共通 科目	社会科学系アカデミックライティング	<p>学術誌（主に社会科学系の英文学術誌）に論文を投稿する際に記載すべき項目・内容について学習する。投稿論文作成技術を身に付けることが、本科目の目的である。論文の構造（タイトル・抄録・緒言・方法・結果・考察・結論等）ならびに、各々の学術誌がどのような分野&amp;内容の論文の掲載を目的として出版されているかについて学ぶ。また、仮想論文を作成・相互査読等の経験を通して、抄録のまとめ方、緒言・考察に記述すべき内容の理解と、首尾一貫した論理を保つための基本的方法を習得する。</p>	<p>隔年 講義 8時間 演習 7時間</p>

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健 福祉 共通 科目	サービス評価研究特論	<p>（概要）保健医療福祉領域の研究を進める上で重要となる地域包括ケアシステム下において提供される社会福祉及び医療、介護サービス評価の理論・方法論および社会調査法・統計処理について理解を深め、仮想的な研究計画の立案を素材とした演習を通して、サービス評価に係わる研究を具体的に遂行できる能力を養う。（科目責任者：㊸ 筒井孝子）</p> <p>[オムニバス方式：全15回]            (㊸ 筒井孝子/5回)            サービス評価の理論・方法論について、講義や演習を通して、その具体的方法について学ぶ。</p> <p>(㊹ 東野定律/5回)            社会調査法・統計処理について、演習を通して、その具体的方法について学ぶ。</p> <p>(㊸ 筒井孝子、㊺ 大冨賀政昭/5回)（共同）            仮想的な研究計画の作成・相互批評等の演習を通して、明確な問題意識に基づいて仮説を立て、調査法の選定、調査の設計、実査、データの分析と命題の提示にいたるまでのプロセスを科学的・客観的に処理する方法を習得する。また同時に、研究成果の発表の方法についても学ぶ。</p>	オムニバス方式・ 共同（一部）  講義 10時間 演習 20時間



授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健 福祉 共 通 科 目	システム生命科学特論	<p>（概要）昨今の医療は再生医療、分子標的薬等新たな治療薬、高度先進医療、薬の効きやすさの個人差等テーラーメイド医療など、進歩も著しい。これらを理解するため、それを支える当該領域の分子レベルでの機序や実験環境を学ぶとともに、常にupdateする術を学ぶ。（科目責任者：20 岩崎俊晴）</p> <p>[オムニバス方式 全8回] (20 岩崎俊晴/3回) 高度先進医療と最新の医療技術及び研究手法について総論、マウスやラット・培養細胞を用いた研究手法について講義し、全体の総括を行う。</p> <p>(36 竹内正弘/2回) 再生医療等製品や革新的医薬品の早期実用化に向けたレギュラトリーサイエンスに基づいた取り組みについて講義する。</p> <p>(30 津田学/1回) 本講義ではモデル生物として、生命科学のみならず、医学・薬学・栄養学の分野にも大きく貢献しているショウジョウバエについて解説を行う。</p> <p>(27 木村芳滋/1回) 近年の生命科学の進歩に関してアポトーシス、RNAi、GFPイメージングなどモデル生物線虫C. エレガンスを用いて得られた知見を中心に解説する。</p> <p>(35 佐竹弘行/1回) 疾患や薬剤応答の原因となりうるDNA中の一塩基多型等について、その検出技術や分析機器、テーラーメイド医療への応用について解説する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健福祉専門科目	看護系 看護研究特論	<p>（概要）健康支援・療養支援の高度な実践に向けて、対象者のライフステージや支援が提供される場に応じて、より妥当性の高いアプローチを用いて、効果的に支援を行うための方略や現象の深淵的理解を専門的・網羅的に探究し、支援に関わる研究方法や評価方法を開発できる高度な能力を培い、博士論文の執筆に必要な研究能力の獲得を目指す。（科目責任者：④ 村上明美）</p> <p>[オムニバス方式 全15回]            (④ 村上明美/3回)            ・健康支援・療養支援の概念分析および概念枠組の検証と理論化            ・健康支援・療養支援に関する成果検証のための研究のクリエーション</p> <p>(7 織井優貴子/3回)            ・健康支援・療養支援に関する最新の調査・介入研究デザインの国内外の動向の把握            ・健康支援・療養支援に関する最新の調査・介入研究デザインの評価および開発</p> <p>(11 野村美香/3回)            ・健康支援・療養支援に求められる高度な測定用具の評価および開発            ・健康支援・療養支援に必要なアウトカム・モデルの理解と活用            ・健康支援・療養支援における研究のサブストラクションの理解と活用</p> <p>(43 守田美奈子/3回)            ・質的研究のパラダイムやアプローチの概観            ・健康支援・療養支援に役立つ質的研究のクリエーション</p> <p>(42 西村ユミ/3回)            ・現象学や解釈学、構築主義のパラダイムに基づく看護研究の理解            ・健康支援・療養支援における質的研究の醍醐味と課題の考察</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健福祉専門科目	看護系 成長発達期健康看護特論	<p>（概要）本講義は博士前期課程の「小児看護学特論」「ウィメンズヘルスケア特論」の履修を基礎として学習を進める。周産期・小児期・青年期にある対象者とその家族の健康課題を成長発達の変化とともに捉えて支援するために、関連する諸理論の変遷を概観し、関心領域の概念・理論を分析し、研究論文等の文献から現状と課題を明らかにする。課題解決のための研究的アプローチについて教授する。（科目責任者：④ 村上明美）</p> <p>[オムニバス方式 全15回] (22 谷口千絵/5回) 周産期の対象者とその家族の健康課題について、特に妊婦の健康行動に対する支援、出産をめぐる環境の視点から、課題解決のためのアプローチについて教授する。</p> <p>(④ 村上明美/5回) 周産期の対象者とその家族の健康課題について、特に分娩期・産褥期・新生児期の看護・助産実践の在り方、および周産期のチーム医療とリスクマネジメントの視点から、課題解決のためのアプローチについて教授する。</p> <p>(2 野中淳子/5回) 小児期にある対象者とその家族の健康課題について、看護実践の在り方や医療・教育・福祉の連携・協働、対象者のきょうだいも含む家族支援の視点から、課題解決のためのアプローチを教授する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健福祉専門科目	看護系 療養期健康看護特論	<p>（概要）健康障害のある成人や高齢者への看護を取り上げ、患者と家族を理解するための諸概念、理論・モデルを探究し、時代や社会背景を考慮した健康問題と効果的な看護援助、多職種連携のあり方を探究する。（科目責任者：③ 白水真理子）</p> <p>[オムニバス方式 全15回]            (③ 白水真理子/5回)            慢性看護のコアとなる概念を概観し、慢性病をもつ人と家族の自己管理能力やQOLの維持・向上を図る看護支援方法や教育プログラムのあり方を探究する。</p> <p>(7 織井優貴子/5回)            対象者と家族の生活において、生涯にわたる健康とQOLの維持・向上を図るセルフケア能力の獲得や、社会資源の活用を支援する看護支援方法を探究する。</p> <p>(11 野村美香/5回)            がん等の疾患や重篤な健康障害をもつ療養者とその家族の対処能力を高め、苦痛を緩和し、QOLの維持・向上を図るための看護援助方法を探究する。</p>	オムニバス方式 講義16時間 演習14時間

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健福祉専門科目	看護系 包括支援看護特論	<p>（概要）対象の年齢、健康レベルに関わらず、その人の生活の拠点を基盤として、予防を含めた保健・医療・福祉の包括的な支援を切れ目なく提供できるように必要となるケア要素およびそれらから構築される包括ケアシステム(情報管理を含む) について理解し、さらに包括ケアシステムを有機的に循環させる看護職の専門的実践能力のあり方について探究する。（科目責任者：16 水戸優子）</p> <p>[オムニバス方式 全15回]            (16 水戸優子/6回)            保健・医療・福祉を切れ目なくつなぐための包括支援看護のケア要素およびケアシステム(情報管理) のあり方の理解を深め、さらに対象の持てる力を発揮した生活行動を継続的に支援する援助技術について探究する。</p> <p>(6 北岡英子/3回)            保健・医療・福祉を切れ目なくつなぐ看護職と他職種・他機関との連携のあり方、地域資源の活用・開発・施策化の方法、看護職のマネジメントを探究する。</p> <p>(8 宮芝智子/3回)            包括ケアシステムを有機的に循環させる看護職の専門的実践能力のうち、教育計画やコーチングなどの教育的機能のあり方を探究する。</p> <p>(26 金壽子/3回)            保健・医療・福祉において切れ目なく健康予防、健康診査、早期異常発見を可能にするヘルスアセスメントのあり方について探究する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健福祉専門科目	栄養系  食品健康科学特論	<p>（概要）機能性食品・介護食品に科学的側面からアプローチし、様々なライフステージの食事における活用例について学ぶ。さらに、「食事・食品と健康」に関する研究の進め方に関する知識を深め、機能性食品を組み入れた食事について実践的に検証する。（科目責任者：14 山西倫太郎）</p> <p>[オムニバス方式 全15回] (14 山西倫太郎/5回) 食品の三機能（栄養性・嗜好性・生体調節）を紹介し、生体調節機能を中心に講義する。</p> <p>(33 向井友花/5回) 食事、食品、または食品成分の影響を、科学的に解釈することの重要性を焦点に講義する。</p> <p>(32 倉貫早智/5回) 食事と健康の我が国の実情と対象者別の食品の活用について具体例を題材に講義する。</p>	オムニバス方式  隔年  講義 22時間 演習 8時間

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健福祉専門科目	栄養系 保健福祉栄養評価論	<p>（概要）保健福祉における健康寿命の延伸を目的とした栄養・食事サービスに関する多様な課題の分析や評価に関する研究法を教授し、これらの研究成果を活用した栄養・食事サービスの創造・再生に関する戦略的取組みにまで授業を展開する。（科目責任者：12 中島啓）</p> <p>[オムニバス方式 全15回] （12 中島啓、23 外山健二、25 佐野喜子/9回）（共同） 疾病の予防・重症化予防のための低栄養や非感染性疾患に関する栄養管理・栄養指導の課題分析や評価に関する研究法を教授し、疾病予防・重症化対策の戦略的取組みにまで授業を展開する。</p> <p>（17 鈴木志保子/2回） 健康の維持には、良好な栄養・運動・休養があげられる。健康づくりに関する先行論文から栄養・食事サービス（運動を含む）を中心に課題分析や評価に関する研究法を教授し、健康づくりの視点からの戦略的取組みにまで授業を展開する。</p> <p>（② 杉山みち子、⑩ 五味郁子/4回）（共同） 高齢者の栄養ケア・マネジメントの制度化に関する一連の研究に基づいて、課題分析、評価方法について教授し、地域包括ケアシステムにおけるその成果に基づく創造と再生の取組みにまで授業を展開する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健 福祉 専門 科目	社会 福祉 系  児童福祉学特論	「児童虐待対策」「貧困の連鎖の防止」「特別養子縁組と自己決定支援」などの多職種連携を必要とする児童福祉学の課題について、歴史的背景・政策動向・実践の動きなどを先行研究・各種資料・科目責任者らの研究成果・現在進めている研究の進捗状況などに基づいて講義する。その際、それぞれの個別課題の基盤にある児童福祉学の共通課題との関係を理解する機会を提供する。その上で、他の系の院生を含めたディスカッションにより、児童福祉学の観点から保健福祉学への貢献を検討する。	



授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健福祉専門科目	社会福祉系 日英高齢者福祉政策論	本講義は、政治学、社会政策学、地域福祉学、ソーシャルワークの学際的研究枠組みから高齢者福祉を検討し、国と地方のサービス供給責任、高齢者の基本的人権、費用負担のあり方を探求することを目的としている。元祖福祉国家の英国を研究素材にして、福祉国家の変容をテーマして扱うが、サブ項目としては、高齢者福祉政策の展開、公私関係の変化、社会的企業などの新たな福祉多元主義を講述し、日本の状況と対比させながら、政策の底流に位置する高齢者の人権、政策開発、市場化、ローカル・ガバナンスを講義する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健福祉専門科目	社会福祉系  医療社会福祉実践 ・政策特論	<p>（概要）医療社会福祉について、医療政策・制度の仕組みなどの政策面と、医療ソーシャルワークの実践面から検討する。（科目責任者：⑤ 西村淳）</p> <p>[オムニバス方式 全15回] （⑤ 西村淳/10回）</p> <p>医療政策・制度の観点から、まず医療制度・政策の歴史と国際比較を通して医療制度・政策の現状と課題について考察する。次に、医療保険・公費負担医療・診療報酬・自己負担などの医療の費用に関する仕組みと課題について学び、また、医療機関と医療計画・病院の機能分化と連携などの医療提供体制のあり方について理解する。さらに、これらを踏まえた上で、医療・福祉の専門職間の連携について、資格制度や地域包括ケアのあり方の観点から検討する。</p> <p>（⑥ 高橋恭子/5回）</p> <p>近現代における医療ソーシャルワークの生成過程を、医療制度・政策や医療環境の変化、専門職の発展と地域における連携や統合などの観点から検討し、さらに地域の実情を踏まえた地域包括ケアと退院支援のあり方、倫理的ディレンマといった医療ソーシャルワーク実践の現代的な課題について検討する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健福祉専門科目	リハビリテーション系  リハビリテーション 病態解析学特論	リハビリテーション学において各種障害から生じる運動障害と生活場面における動作障害に対して運動発生の基礎となる神経生理学および運動制御機構を理論的に探求する。さらに、正常機能と障害状態にある運動制御機構の乖離に着目することで、その根幹を究明する分析的方法論を探究する。以上の基礎的な見地を検討した上で、リハビリテーション医療における各種対象疾患に存在する様々な病態運動特性を分析し、正常機能を遂行する上で必要となる要因を分析・考察する能力を養うことを目的とする。また、探求された理論から障害構造の多様性を網羅した新たな臨床評価学のあり方を学習する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健福祉 専門科目	リハビリテーション系  リハビリテーション 認知学習行為学特論	<p>〔概要〕発達障害（高機能自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害）がある児童に見られる学習行為（書字、座位姿勢、学用品の操作、体育、給食）の問題に対して、感覚統合モデル、人間作業モデルから要因を理論的に探求する。また学校作業療法（School Based OT）の見地から教師・保護者と有効な連携を行いうるコンサルテーション論を学ぶ。発達障害から起因する障害特性、認知学習行為の問題の評価法ならびにエビデンスに基づく介入方法論を探求する。 （科目責任者：21 笹田哲）</p> <p>[オムニバス方式：全15回] (21 笹田哲/10回) 発達障害（高機能自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害）児に対する、学校現場における感覚統合モデル、人間作業モデルの視点からの評価法、介入法を概説する。</p> <p>(29 白濱勲二/5回) 学習障害、自閉スペクトラム症、ADHD児に対する高次神経学的な治療的介入を概説する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健 福祉 演習 科目	成長発達期健康看護演習	<p>（概要）本演習は博士後期課程「成長発達期健康看護特論」の履修を基礎として演習を進める。周産期及び小児期にある対象者に対する健康課題について、生涯発達の視点から、周産期・小児期・青年期にある対象者とその家族が目指す健康への支援及び生殖機能の健康を支援するために、各自の研究課題を探究する。多角的な方法論を修得し、各自の研究の方向性を明確にする。（科目責任者：22 谷口千絵）</p> <p>[オムニバス形式 全15回]</p> <p>(2 野中淳子、④ 村上明美、22 谷口千絵/1回) (共同) 博士後期課程の専門科目「成長発達期健康看護特論」を基礎として、看護学研究の方法論を解説し、演習課題を設定する。</p> <p>(2 野中淳子/2回) 子どもとその家族を対象とした研究法、看護介入プログラムの開発の枠組み・方法について演習を行う。</p> <p>(④ 村上明美/2回) 周産期における看護実践の評価法、介入研究について参加観察法、インタビュー、アウトカム設定の方法について演習を行う。</p> <p>(22 谷口千絵/2回) 周産期における看護介入の評価法、質問紙調査、尺度開発の方法について演習を行う。</p> <p>(2 野中淳子、④ 村上明美、22 谷口千絵/8回) (共同) 成長発達期健康看護演習合同ゼミ；成長発達期にある対象者とその家族に関する学生の関心テーマについて、プレゼンテーションとディスカッションを通して、生涯にわたる健康を維持する看護支援方法を探究する。</p>	オムニバス方式・ 共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健福祉演習科目	療養期健康看護演習	<p>（概要）健康障害のある成人や高齢者への看護に関する系統的文献検索と精読により、研究の動向と課題を明確にする。療養期にある成人や高齢者を主体にした自己管理教育や援助技術、評価指標の開発と検証、さらには支援者の支援方法や教育に関連した研究課題を探究するとともに、研究方法について先行研究を通して多角的に学ぶ。これらを通して、自身の研究への適用と課題を検討する。（科目責任者：③ 白水真理子）</p> <p>[オムニバス方式 全15回]            (7 織井優貴子/4回)            高齢社会において急増する健康問題、特に生活習慣病(慢性病、がんを含む)の対象者に焦点を当てる。</p> <p>(③ 白水真理子/4回)            慢性病に焦点を当て、療養行動に影響する心理社会的要因、療養行動を支援することに活用できる理論、介入研究の方法や評価指標に焦点を当てる。</p> <p>(11 野村美香/4回)            がんを始めとする治療の進歩が著しい健康障害と、その進歩に伴う保健・医療・福祉の変化の分析、苦痛を緩和し、QOLの維持・向上を図るケアシステムに焦点を当てる。</p> <p>(③ 白水真理子、11 野村美香、7 織井優貴子/3回) (共同)            合同ゼミ；学生の関心テーマについて、文献検討に基づくプレゼンテーションとディスカッションを通して、療養生活を営む人々が、生涯にわたり健康を維持する看護支援方法を探究する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健 福祉 演習 科目	包括支援看護演習	<p>（概要）対象の生活の拠点を基盤とした包括支援ケアシステムを有機的に循環させる看護職の役割・機能を理解し、そのケア要素となる知識・技術・態度を習得する。具体的には、対象の生活の拠点を基盤としつつ、保健・医療・福祉を切れ目なくつなぐケアを提供するための看護職のマネジメント力、情報管理、指導・教育力、ヘルスアセスメント能力、対象のニーズおよび強みに応じた生活援助技術の方法を現場視察、実地訓練、事例・文献検討、ディスカッションにより探究する。（科目責任者：16 水戸優子）</p> <p>[オムニバス方式全15回] (16 水戸優子/5回) 既に取り組んでいる病院・地域等の事例を通して保健・医療・福祉をつないでいるケア要素とケアシステムの構造に関連する知識・技術・態度を探究する。そのなかで対象のニーズおよび強みをどのように捉え、生活行動援助技術を実施・評価したのかについて探究する。</p> <p>(6 北岡英子/4回) 既存の包括支援ケアシステムモデル事業を分析し、課題解決のための仕組みや方法、資源開発や行政への提言を含めた看護職のマネジメント力について探究する。</p> <p>(⑧ 宮芝智子/3回) 包括支援ケアシステムを促進するための看護職自身および他職種への教育的（教育計画、コーチング）機能についてシミュレーションを通して探究する。</p> <p>(26 金壽子/3回) コミュニティベースから病院・施設、そしてコミュニティへと切れ目なく健康予防指導、健康診査、早期異常の発見を行うためのヘルスアセスメントの方法、留意点について実地訓練を通して探究する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健 福祉 演習 科目	食品健康科学演習	<p>（概要）ウェルビーイング達成に寄与する食事・食生活について、保健福祉学の目的に沿った研究能力を身に付ける。（科目責任者：14 山西倫太郎）</p> <p>[オムニバス方式 全15回]            (32 倉貫早智/4回)            機能性食品に関するエビデンス研究や食生活と疾病に関する疫学研究等の文献を講読し、その活用について議論する。</p> <p>(33 向井友花/4回)            食事・食生活や食品・食品成分による代謝異常の改善作用に関する文献を講読し、その作用機序を議論し理解する。</p> <p>(14 山西倫太郎/4回)            『体調』に影響する生体のレドックス状態への関与が考えられる食品成分に関する文献を講読し、その食品機能について議論する。</p> <p>(32 倉貫早智、33 向井友花、14 山西倫太郎/3回)（共同）            最新の研究成果を発表し、その進捗状況・今後の研究展開について議論する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）



授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健福祉演習科目	保健福祉栄養評価演習	<p>（概要）保健福祉における健康寿命の延伸を目的とした栄養・食事サービスに関する多様な課題の分析や評価に関する研究能力や、研究成果を活用した栄養・食事サービスの戦略的創造・再生に寄与できる能力を、文献抄読や討議を通じて高めるための演習である。 （科目責任者：② 杉山みち子）</p> <p>[オムニバス方式 全15回] （12 中島啓/3回、23 外山健二/2回）（共同） 疾病予防・重度化予防の栄養管理の課題分析と評価研究の文献抄読と討議を行う。</p> <p>（25 佐野喜子/2回） 保健指導等疾病予防と食環境に関する課題分析と評価研究に関する文献抄読と討議を行う。</p> <p>（17 鈴木志保子/3回） 健康づくりと栄養・食事サービス（運動を含む）課題分析と評価研究の文献抄読と討議を行う。</p> <p>（② 杉山みち子/3回、⑩ 五味郁子/2回）（共同） 地域包括ケアシステムの推進の観点から栄養ケア・マネジメントや食生活支援に関する課題分析と評価研究の文献抄読と討議を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健 福祉 演習 科目	児童福祉学演習	児童福祉分野の研究を進めている博士後期課程の院生を対象として、児童福祉学に焦点をあてた演習を行う。主たる課題は、「子どもの貧困の連鎖」「児童虐待」「ひとり親家庭支援」「社会的養護」「子育て支援」などである。学会論文等を素材としたディスカッションを繰り返し行うとともに、「社会保障審議会児童部会」などの議事録や資料を読み、内容についてディスカッションする機会を用意する。さらに、研究成果を学会等で口頭報告したり学会誌へ投稿したりするためのプロセスに参画し、その過程について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健 福祉 演習 科目	日英高齢者福祉政策論演習	学際的視点から高齢者福祉政策を考察し、公共性の認知、人権の保障、社会的市場、福祉レジーム、費用負担論を探求する。T. H. MarshallおよびRichard Titmussの論文を読むことで権利保障と社会的市場の意義を学ぶ。次にEsping-Andersenの福祉レジームを読むことで政治イデオロギーと福祉体制の関係を理解し、各論の高齢者福祉についての論文を読み解くことで、高齢者福祉政策の要点を把握する。報告者はクリティカル・リーディングを通して、プレゼンテーションで問題提起を行う。その後、参加者全員で福祉国家、社会政策、高齢者福祉政策の本質部分を議論する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保 健 福 祉 演 習 科 目	医療社会福祉実践 ・政策演習	<p>（概要）医療社会福祉における制度上・実践上の課題を分析し、課題解決のための方法を探求する。（科目責任者：⑤ 西村淳）</p> <p>[オムニバス方式 全15回] ⑤ 西村淳/8回 医療の費用負担と医療提供体制を中心とした医療制度・政策の課題について考察し、医療社会福祉研究における位置づけを明らかにする。</p> <p>⑥ 高橋恭子/7回 近現代医療社会事業史、医療ソーシャルワーク研究と実践に関する論文を講読することで、歴史的な展開を踏まえた現代における医療ソーシャルワーク実践に関する研究方法について探求する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健 福祉 演習 科目	リハビリテーション 病態解析学特論演習	各種障害から生じる運動障害と生活場面における動作障害に対して運動発生の基礎となる神経生理学および運動制御機構を実践的に探求する。さらに、正常機能と障害状態にある運動制御的な分析を基礎として、正常および異常運動における運動制御機構の乖離に着目することで、その根幹を究明する分析的方法論を構築するための実践を行う。以上の基礎的試行からリハビリテーション医療における各種対象疾患に存在する様々な病態運動特性を分析する方法論の構築、および正常機能を遂行する上で必要となる要因を分析・考察する方法論の構築を行い、その能力を養うことを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健福祉演習科目	リハビリテーション 認知学習行為学演習	<p>〔概要〕発達障害（高機能自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害）から生じる学校生活における学習行為の問題に対して、感覚統合モデル、人間作業モデルの見地から学習行為の問題要因を理論的に探求する。また学校作業療法（School Based OT）の見地から学校現場に係わる多職種と有効な連携を行いうる新たな方法論を学ぶ。感覚統合評価、人間作業モデルの評価法から支援目標の設定、学習行為障害への介入の観点から演習して自らの研究の方向性を明確にし、博士論文の研究へ導く。（科目責任者：21 笹田哲）</p> <p>[オムニバス方式：全15回] (21 笹田哲/10回) 発達障害（高機能自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害）児に対する感覚統合モデル、人間作業モデルの視点で、事例などをもとに介入とアウトカムの研究手法を演習する。</p> <p>(29 白濱勲二/5回) 認知的な実験研究から高次神経学的なデータを取り上げて、統計学的解析方法を演習する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健福祉研究科目	保健福祉学特別研究	<p>(概要) 保健・医療・福祉の今日的課題を取り上げ、研究テーマに関する国内外の文献検討、研究計画の立案や研究フィールドの確保、研究倫理への対応、データの収集と分析、考察を行い、博士論文の作成を行う。これら一連のプロセスを通して、自律して研究を実施する能力を培う。指導教員、指導補助教員の指導のもとに博士論文の作成に取り組む。研究過程において、研究テーマに関連した予備研究もしくは文献レビューを行い、成果を学術雑誌に公表する。必要に応じ特別研究を補助する関連・周辺領域の演習を組み入れる。</p> <p>*看護系の研究 (2 野中淳子) 子どもと家族のQOL向上を目指し、子どもの成長発達支援を中心とした健康増進や健康問題をもつ子どもと家族に関する研究/特に小児がんの子どもをもつ家族関係・家族ケアに関する研究、さらには多職種協働や看護職者の成長に関する研究にかかわる研究指導を行う。</p> <p>(③ 白水眞理子) 慢性病および生活習慣病の自己管理と予防に関する研究および自己管理教育に関する研究、特にプログラム開発と効果検証に関する研究指導を行う。 看護学生、看護教員、看護職者の発達を支援する看護基礎教育および継続教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 北岡英子) 個人・家族・集団・地域を対象とした生涯にわたる健康生活のための予防対策として、健康教育・指導のあり方、地域包括ケアシステムの構築と活用、政策に関する研究、および保健福祉分野における人材育成に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 織井優貴子) 成人・高齢期にあるがん患者とその家族の生活支援や免疫能およびQOL維持向上に関する介入プログラム開発及び効果検証研究や、緩和ケア、End of Life (在宅ケアも含む) における患者とその家族の支援に関する介入プログラム開発と効果検証に関する研究指導を行う。 成人・高齢期にあるがん患者とその家族の看護に関するシミュレーション看護教育プログラム開発とその検証に関する研究指導を行う。</p> <p>(④ 村上明美) 女性を取り巻くリプロダクティブ・ヘルスの課題について、健康支援方法の開発・検証、周産期における危機管理等に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 野村美香) がんの診断・治療、人生の最終段階にいたるがん患者・家族の療養生活における様々なストレスと、療養の場や方針の移行に対するケア提供システム、がん患者・家族の主体性を育む健康支援のための看護システムのあり方及びそれらの評価方法の開発・検証に関わる研究指導を行う。</p> <p>(16 水戸優子) 対象者が安全安心し自立を目指し生活行動を行うことを可能にする看護師の生活行動援助技術に関連したケアプログラムの開発と検証についての研究指導を行う。コア技術要素の抽出、エビデンスの明確化、職種を超えた連携・協働に基づき複数の援助技術を組み合わせたケアプログラムの開発をめざす。</p> <p>(22 谷口千絵) 周産期の女性への支援および看護ケアに関する評価研究および看護ケア提供者の技術向上・維持に関するプログラムの検証について研究指導を行う。</p> <p>(⑧ 宮芝智子) 看護学各領域の教育に普遍的に存在する要素に焦点を当て、看護学生を含む看護職者個々の発達を支援することに寄与する看護基礎教育、継続教育、卒後教育のあり方およびそれらの評価方法の開発・検証等に関する研究指導を行う。</p> <p>(26 金壽子) 個人特性上、的確な健康状態の把握や異変・異常の早期発見が困難な対象（地域居住の知的障害者等）への介入による効果検証研究、そのような対象に対応できる看護職者育成のための先駆的教育プログラムの開発（海外プログラムの国内導入を含む）に関する研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健福祉研究科 目	保健福祉学特別研究	<p>(28 大庭志野) 疫学的手法を用いて、糖尿病、がん、循環器疾患、その他の生活習慣病の予防を目的とし、それらのリスクに影響を与える要因となる生活習慣、知識、予防行動、社会的な指標等を明らかにするための研究指導を行う。</p> <p>*栄養系の研究 (29 杉山みち子) 地域包括ケアシステムのもと、介護・医療、生活支援・介護予防における栄養ケア・マネジメントの再生をはかり、その効果的なあり方に関する研究指導を行う。</p> <p>(12 中島啓) 近年増加している糖尿病などの代謝性疾患、肥満関連疾患と食習慣異常などとの因果関係および機序を模索・探求するために臨床疫学研究および介入研究を行い、これらを解析する研究を指導する。</p> <p>(14 山西倫太郎) 健康に対する食品成分の影響について明らかにする目的で、おもに実験動物や培養細胞を実験材料に、生体における中間指標（例：細胞内酸化還元状態）・最終的な生理活性（例：細胞内酸化還元状態に左右される抗原呈示活性）に及ぼす食品成分の影響を解析する研究を指導する。</p> <p>(17 鈴木志保子) アスリートの栄養管理（スポーツ栄養マネジメント）における評価法の開発に関する研究指導を行う。また、体力、身体組成、生活習慣の経年的な変化から子どもの発育発達への影響について研究指導を行う。</p> <p>(20 岩崎俊晴) 核内ホルモン受容体が関わる生命現象に対する in vivo及び in vitro 研究を指導する。医師の立場から指導するので疫学研究を含め、幅広く対応する。核内ホルモン受容体は最大のスーパーファミリーであり、多くの生命現象に関与するが、研究手法は類似している。ポリフェノール等の解析、骨格筋におけるエネルギー代謝、糖代謝、脂質代謝、脳発達に関することが主な研究指導対象となる。</p> <p>(25 佐野喜子) 継続可能性や効果が期待される糖尿病重症化対策の構築のため、対象者・地域特性に沿ったプログラム開発、評価指標、栄養疫学的な効果検証に関する研究指導を行う。</p> <p>(30 津田学) モデル生物であるショウジョウバエを用いて、糖尿病や肥満などの生活習慣病の発症機序について分子レベルで解明するための研究指導を行う。</p> <p>(32 倉貫早智) 日本型食生活の有効性や食品の機能性をヒト試験で検証し、これらを活用した具体的な食生活のあり方およびそのシステムに関する研究指導を行う。</p> <p>(33 向井友花) 食品成分の摂取が生体内の栄養素の代謝調節に及ぼす影響について、代謝関連因子の遺伝子発現や酵素活性調節といった生体の分子メカニズムを、実験動物や培養細胞を用いた実験手法により解析する研究を指導する。</p> <p>(34 五味郁子) 高齢者がいきいきと自立して暮らしていける栄養管理システム構築のため、ニーズ把握、ツール開発、プログラム評価といった実践活動にもとづいた研究指導を行う。</p>	



授 業 科 目 の 概 要			
（保健福祉学研究科 保健福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健 福祉 研究 科目	保健福祉学特別研究	<p>*社会福祉系の研究            (8 山本恵子)            政策科学の視点から、当事者（高齢者）の権利保障と法制度、国における高齢者福祉サービスの財源調達責任、地方におけるサービス供給責任および地域ニーズの把握と掘り起こし、地方行政と民間事業の委託契約・コミッションング、ケアサービスの質の保証、当事者と行政・事業者・地域社会との関係性に関して研究指導を行う。</p> <p>(10 新保幸男)            子どもの貧困対策、児童虐待対策、ひとり親家庭支援などを中心とする児童福祉分野に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 西村淳)            保健福祉の制度について、権利と義務、民営化と地域連携の中での公的責任、政策手法と政策過程、財政と接続可能性などの観点から研究指導を行う。</p> <p>(6 高橋恭子)            医療ソーシャルワーカーの役割や機能などを中心とする医療ソーシャルワークに関する研究指導、医療ソーシャルワークの生成過程に関する歴史的研究について研究指導を行う。</p> <p>(9 生田倫子)            ストレス、精神病理、メンタルヘルスに関する諸問題、家族支援、関係者支援、組織システムへの介入などを中心とした臨床心理学分野に関する研究指導を行う。</p> <p>*リハビリテーション系の研究            (7 菅原憲一)            リハビリテーションにおける各種疾患から生じる運動障害を改善することを目的として、上位・下位中枢神経系による随意運動制御メカニズムについて電気生理学的解析手法を中心とした研究指導を行う。</p> <p>(21 笹田哲)            高機能自閉症、学習障害児を対象に、学習、認知について感覚統合理論、人間作業モデルの理論を中心とした研究指導を行う。</p> <p>(27 木村芳滋)            がん、神経変性疾患、老化など保健医療分野の諸問題に関する分子基盤を明らかにするため、線虫C. elegansをモデル生物としてもちいて、遺伝学、分子生物学、細胞生物学、質量分析法など多様なアプローチから研究指導を行う。</p> <p>(29 白濱勲二)            身体機能障害、高次神経障害、認知学習機能などの研究課題について、基礎的・臨床的手法を中心にリハビリテーション分野の研究指導を行う。</p>	